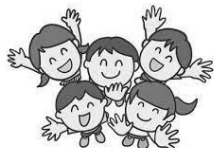


国際化が進む中で考えたいこと

校長 相川 保 敏



11月7～8日の二泊三日、6年生の修学旅行を引率しました。好天の下、奈良から京都へと古都の文化遺産を見学するとともに、友禅染の体験も行いました。昨年度もほぼ同じ行程でしたが、大きく異なっていたのは外国人観光客の方が大勢みえたことです。資源に乏しい日本は、観光立国としてインバウンド需要に力を入れていかなくてはなりません。観光地で働いている方々にとって大変喜ばしい状況だと思われます。しかし、金閣などは記念写真の撮影もままならぬところもありました。今後も観光客が増え続けた場合、子どもたちが日本の文化遺産をゆっくり味わうことは難しくなってくるのかなと感じました。

観光客だけでなく、出入国在留管理庁によれば、令和4年末現在における中長期在留者数は278万6,233人、特別永住者数は28万8,980人で、これらを合わせた在留外国人数は307万5,213人となり、前年末（276万635人）に比べ、31万4,578人（11.4%）増加しました。最も多い国は中国、順にベトナム、韓国、フィリピン、ブラジル、ネパール、インドネシアと続きます。国籍・地域数は195（無国籍を除く。）にも及びます。私の住んでいる地域でも、南アジアの民族衣装と言われるシャルワールカミーズを着た人を見かけるようになりました。また、近くのエジプト料理店には、ラマダンの夜に多くの人たちが詰めかけています。日本国内でも国際色が豊かになってきたことが実感されます。しかしながら、地域の人たちからはまだ異質の目で見られているのが現状です。愛知県には、東京に次いで2番目に多い28万人を超える外国人の方が住んでいます。外国の方々と共存・共栄していくことが不可欠であると考えます。

11月3日、大阪市生野区で統廃合された林寺小学校の跡地を利用したインターナショナルスクールの新キャンパス開校式典に参加しました。生野区西部地域では、12小学校・5中学校を4小学校・4中学校に再編する計画が進められています。小学校の数は3分の1になってしまう計画です。つまり、自分たちの地域から小学校がなくなってしまう地域が3分の2もあるということです。

式典で、林寺地域会長の梶田正夫氏のあいさつがありました。概要は次のようなものでした。「わたしたちの地域から、子どもたちの声が消えました。登校下校で子どもたちとの触れ合いもなくなりました。わたしたちの地域がどうなっていくのか大変不安でした。しかし、林寺小学校に子どもたちの元気な声が戻ってきました。地域として大歓迎します。様々な国の子どもたちをこれまでと同じようにわたしたちが守っていきます。互いの文化や価値観を尊重していければと思います。」こうした内容を聞きながら、地域社会が外国の方々を快く受け入れ、互いにWinWinの関係を築き、共存していこうとする姿に感銘を受けました。

グローバル化が進む世の中において、世界の動きに目を向けていくとともに、身近なところから国際理解、国際交流を進めていくことが大切であると改めて思いました。そして、少子化が加速度的に進む日本社会においては、外国の人々と共存・共栄していく方策を考えていかなくてはならないと強く思っています。

さて、今月のめあては「周りのことも考えよう」です。子どもたちの周りには様々な人が生活しています。家庭では家族、学校では友達、通学中は利用客など、時間や場所によって周りの状況は変わってきます。これまで、ルールやマナー、相手のこと、協力の仕方など、月ごとに考えてきました。こうした学びをぜひ生かして行ってほしいと思います。